

子の引渡手続の理論と実務

山本和彦 編著

担当編集から

昨今、子を巡る紛争は、国内外を問わず、その数、激しさを増しています。話し合いによる解決の途が絶たれたとき、最後に行き着くのは、「子」という、多くは幼く、多感で、脆弱な存在への強制執行です。令和元年の改正まで、民事執行法は子の引渡しの強制執行手続に関する明文規定を欠く状況にあり、理論上も実務上も多くの困難が指摘されていました。参照されていた当時のハーグ条約国内実施法が債務者と子の同時存在や間接強制前置を求めていることもこれらに拍車を掛けていました。本書は、今般の民事執行法改正およびそれと足並みを揃えるかたちでのハーグ条約国内実施法改正について、改正前の実情と判例の動き、改正法の内容、さらには、いまだ残されている課題までを丁寧に分析、考察するものです。

両親のあいだで葛藤状態にある子を前に裁判の実効性をいかに確保するのか。子の引渡し・返還はまさに難問といってよいでしょう。だからこそ、これに関わるすべての専門家の協働が不可欠でもあります。紛争の渦中で躍るこどもたちの未来を支えるための一冊になれば、そう願っています。(〇)

Index

様々な視点から語られる第3部は、この問題の難しさをリアルに映し出します。

第1部 令和元年改正の意義と概要

- 第1章 改正法の意義と概要
- 第2章 改正規則の内容

第2部 子の引渡し及び返還が問題となる手続

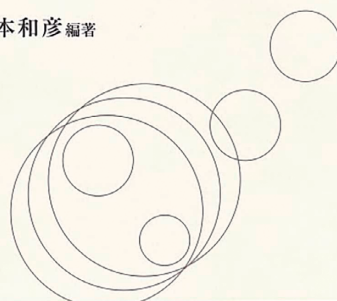
- 第3章 国内家事手続の概要と引渡しが問題となる場面
- 第4章 ハーグ返還手続の概要と返還が問題となる場面

第3部 子の引渡・ハーグ返還手続の現状と課題

- 第5章 当事者からみた国内引渡手続の現状と課題
- 第6章 当事者からみたハーグ返還手続の現状と課題
- 第7章 裁判所・執行官からみた国内引渡手続の現状と課題
- 第8章 執行補助者からみた国内引渡手続の現状と課題
- 第9章 中央当局からみたハーグ返還手続の現状と課題

子の引渡手続の理論と実務

山本和彦 編著



葛藤状態にある「人」を対象にいかに裁判の実効性を確保するか。

これは難しい問いである。

令和元年の民事執行法及びハーグ条約実施法の改正を経て、子の引渡し・返還を巡る規律はどう変化したのか。理論・実務の両面からその現状と課題に深く迫る。



用途		対象	
研究	実務	LS	研究 法曹

2022年4月発売／396頁／定価5280円(税込)
A5判／上製

詳細を見る



BOOK INFORMATION